

平成 22 年 7 月 3 日（土）に GP「危機対応実践力養成プログラム」の授業の一環として幼児教育学科と口腔保健学科の一回生全員を対象に市民救命士講習を行いました。その中から神戸市で通算 40 万人目の市民救命士が誕生することになり、同日、神戸市消防局と神戸市防災安全公社主催の記念式典が催されました。式典では各学科の代表が記念品を受け取り、その様子は新聞各紙で報道されました。



市民救命士講習会の様子

媒体名：神戸新聞 朝刊

掲載日：平成 22 年 7 月 4 日（日）



「市民救命士」40万人達成 AED講習を受けた学生に認定証

心臓蘇生などの応急手当てを市民に習得してもらうと、神戸市が実施している「市民救命士制度」で、認定者が40万人を達成。講習を受けた神戸常盤大（神戸市長田区）の学生らに、市消防局から認定証のレブリカなどが授与された。

制度は市などが平成5年に開始。自動体外式除細動器（AED）などを使った心肺蘇生法を学ぶ講習を受けた市民を「市民救命士」として認定するもので、年間3万人の養成を目指し、同大は民間救急講習団体（FAST）に登録、短期大学

この日は午前と午後に分かれて短期大学部1年生計約190人が受講。受講生を代表して、同学部口腔保健学科の岩田彩花さん（19）に、市消防局の嶋秀穂警防部長から認定証のレブリカなどが手渡された。写真。岩田さんは「口腔医療の現場でも人が急に倒れることがある。学んだことを生かしていきたい」と話していた。

「市民救命士」 40万人を達成

神戸常盤大で式典

神戸市消防局が認定する「市民救命士」が40万人に達し、神戸市長田区の神戸常盤大学で3日、記念式典が開かれた。

40万人目になったのは同大短期大学部の学生約百人。同大では幼児教育学科と口腔保健学科の岩田彩花さん（19）は「学んだことを生かし、人の命を助けたい」と話した。

健学科の学生を対象に今年度から市民救命士を養成するカリキュラムを始め、これまでに約250人が受講した。

市民救命士は、一般人でも人が人の応急手当てができる態勢を整えようと総務省消防庁が1993年度から制度を始めた。市の講習は6種類あり、初級の「普通救命コース」は心臓マッサージや人工呼吸の方法、自動体外式除細動器（AED）の使い方など3時間の講習で認定される。

神戸市では95年の阪神大震災以降、受講者が年間3万人ペースで増え続け、東京、大阪に次いで多い。40万人記念認定証を受け取った口腔保健学科の岩田彩花さん（19）は「学んだことを生かし、人の命を助けたい」と話した。